

2021年度

[分野] 専門基礎

/ 人体の構造と機能

[授業科目]

生理学Ⅲ**3 学年**

[基本情報]

担当教員	宮森 美香		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師を有するの教員					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

1・2年次に学習した生理学の総復習を行うことにより、個々の理解不足分野を確認することができる。生理学を体系的に学ぶことで国家試験にも対応できるようになる。

[評価方法]

後期認定試験において60点以上を取ることを基本に授業の参加度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

生理学 第3版

[履修の条件・留意点]

- ・講義要綱を確認し、教科書を読むなど予習をしたうえで授業を受けることが大切です。作る。
- ・生理学ではポイントごとに覚えることも大切ですが、単元を超えた複合的な考え方も大切となります。一度単元が終わったら終了ではありません、そのことを意識しながら授業を受けること。
- ・授業の進行においては、板書とスライドを臨機応変に用います。各自必要なことはメモし、まとめること。
- ・各省が終了した次の時間には授業初めに小テストを行います。理解していない問題は復習に時間をかけること。

授業計画 :回数/講義内容

1回	第1章 生理学の基礎(細胞)	11回	第4章 消化と吸収(消化液の働きと調節)
2回	生理学の基礎(体液・物質の移動)	12回	消化と吸収(消化管の動きと調節)
3回	生理学の基礎(ホメオスタシス)	13回	消化と吸収(吸収について)
4回	第2章 循環(血液:血漿の機能)	14回	第5章 代謝(五大栄養素の働き)
5回	循環(血液:赤血球・血小板、白血球)	15回	代謝(栄養素とエネルギー代謝)
6回	循環(血液:生体防御(第14章含む)、血液型)	16回	第6章 体温(体温調節と発汗)
7回	循環(心臓の機能・刺激伝導系・心電図)	17回	第8章 内分泌(ホルモンの特徴)
8回	循環(心周期、循環の調節)	18回	内分泌(各ホルモンの働き)
9回	第3章 呼吸(呼吸のメカニズム)	19回	内分泌(各ホルモンの働き)
10回	呼吸(呼吸の調節)	20回	まとめと解説

2021年度

[分野] 専門基礎

/ 人体の構造と機能

[授業科目]

解剖学Ⅳ**3 学年**

[基本情報]

担当教員	木原 和彦		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゆう師、柔道整復師、大学の非常勤講師の教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

解剖学Ⅳでは、あらゆる臨床医学及び東洋医学、実習の最も基礎となる人体の基本構造および構成要素について、再復習するだけでなく、その構造や形態が形成される過程に存在する法則について発生学的な知識を交えながら臨床に役立つよう理解を深める。

[評価方法]

国試受験認定試験と前期末試験、卒業試験の成績と授業への参加度を基準として、総合的な評価を行う。

[教科書]

解剖学 第2版 社団法人東洋療法学校協会編 医歯薬出版

[履修の条件・留意点]

1. 平素の授業態度(机上の飲食物、携帯の使用、着信音など)により単位未修得となることがあるので留意のこと
2. 遅刻又は欠席で、減点されるので留意のこと

授業計画 ;回数/講義内容

1回	細胞の要点/理解度確認	11回	口腔・咽頭の要点/理解度確認
2回	組織の要点/理解度確認	12回	食道・胃の要点/理解度確認
3回	器官、外皮の要点/理解度確認	13回	小・大腸の要点/理解度確認
4回	血管の要点/理解度確認	14回	消化腺の要点/理解度確認
5回	心臓の要点/理解度確認	15回	腎臓の要点/理解度確認
6回	動脈の要点/理解度確認	16回	尿路系の要点/理解度確認
7回	静脈の要点/理解度確認	17回	男性生殖器系の要点/理解度確認
8回	リンパ系の要点/理解度確認	18回	男性生殖器系の要点/理解度確認
9回	鼻腔・喉頭の要点/理解度確認	19回	女性生殖器系の要点/理解度確認
10回	気管・肺の要点/理解度確認	20回	女性生殖器系の要点/理解度確認

2021年度

[分野] 専門基礎

/ 疾病の成り立ちと予防及び回復促進

[授業科目]

臨床医学各論 II**3 学年**

[基本情報]

担当教員	高野 弘仁		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師、柔道整復師の教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

多くの疾患の成り立ちや特徴を把握して、疾患の鑑別と西洋医学的診断を修得する。そして、はり師きゅう師として卒後の臨床に繋げられる知識を修得する。

[評価方法]

前期/後期国試受験手続認定試験、卒業試験の全ての試験において毎回 60 点以上を取ることを基本に、総合試験、授業の出欠席なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

東洋療法学校協会編 「臨床医学各論」、「臨床医学総論」

[参考書]

医学教育出版「病態生理できた内科学」

[履修の条件・留意点]

2年次同様プリントを中心に授業を進行する。

授業計画 :回数/講義内容

1回	血液疾患(赤血球疾患)	11回	神経疾患(その他の変性疾患)
2回	血液疾患(赤血球疾患)	12回	神経疾患(認知症・筋疾患)
3回	血液疾患(白血球疾患)	13回	神経疾患(末梢神経疾患)
4回	血液疾患(リンパ網内系疾患)	14回	神経疾患(神経痛・機能性疾患)
5回	血液疾患(出血性素因)	15回	膠原病(関節リウマチ・SLE)
6回	神経疾患(脳血管疾患)	16回	膠原病(強皮症・ベーチェット病)
7回	神経疾患(脳血管疾患)	17回	膠原病(皮膚筋炎・多発動脈炎)
8回	神経疾患(感染性疾患)	18回	膠原病の要点/理解度確認
9回	神経疾患(脳・脊髄腫瘍)	19回	その他の領域(一般外科・麻酔科)
10回	神経疾患(基底核変性疾患)	20回	その他の領域(婦人科疾患)

[授業科目]

病理学Ⅱ

3 学年

[基本情報]

担当教員	前川 秀朗		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

「病理学Ⅰ」の再確認とあらゆる臨床医学及び東洋医学、実習の最も基礎となる内容を総合的に学び、はり師きゅう師として卒後の臨床に繋げられる知識を修得することを目標とする。

[評価方法]

前期認定試験、後期認定試験、卒業試験の全ての試験において60%以上の点数を取ることを基本に、授業の参加度も含め単位取得とする。

[教科書]

[参考書]

教科書「病理学概論」、プリント資料

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1回	免疫異常他	11回	腫瘍②
2回	免疫異常他	12回	代謝異常
3回	進行性病変	13回	生活習慣病
4回	退行性病変 循環障害①	14回	先天性異常
5回	循環障害②	15回	病因他
6回	炎症①	16回	感染症他
7回	炎症②	17回	「循環障害」「代謝障害・退行性病変」の要点/理解度確認
8回	免疫異常①	18回	「進行性病変」「炎症」の要点/理解度確認
9回	免疫異常②	19回	「腫瘍」の要点/理解度確認
10回	腫瘍①	20回	「免疫異常」「先天性異常」の要点/理解度確認

2021年度

〔分野〕 専門基礎

/ 保健医療福祉とはり・きゅうの理念

[授業科目]

関係法規**3学年**

[基本情報]

担当教員	酒井 乙彦		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師、柔道整復師の教員					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

はり師きゅう師として活動する際の業務範囲を把握するとともに、禁止行為などを確認する。免許制度の仕組みや実際の手続き等を確認し、免許を受けてから必要な事項に関して学ぶ。また、医療従事者として理解しなければいけない他の医療従事者の職域を理解し修得する。

[評価方法]

前期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において60点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

「関係法規 第7版（東洋療法学校協会編）」医歯薬出版 他

[参考書]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1回	序論 法とは何か、意義、体系	11回	「医療従事者の倫理」施術者としての倫理
2回	「あはき法」目的、免許	12回	「現代の医学と医療」現代医学の課題
3回	「あはき法」免許、試験	13回	「関係法規」医療法、医師法
4回	「あはき法」業務	14回	「関係法規」その他医療従事者関係法規
5回	医療従事者、医療施設	15回	「関係法規」その他医療従事者関係法規
6回	国民医療費、医療保険	16回	「関係法規」薬事法規
7回	「あはき法」施術所、両罰規定	17回	「関係法規」衛生関係法規
8回	「あはき法」指定試験機関	18回	「関係法規」社会福祉、社会保険関係法規
9回	公的医療負担、介護保険	19回	「あはき法」の要点/理解度の確認
10回	「医療従事者の倫理」医療倫理	20回	「その他医療法規」の要点/理解度の確認

2021年度

[分野] 専門

/ 臨床はり学 臨床きゅう学

[授業科目]

鍼灸理論Ⅱ**3 学年**

[基本情報]

担当教員	前川 秀朗		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

「鍼灸理論Ⅰ」で学んだことを整理、発展させ、あらゆる臨床医学及び東洋医学、実習の最も基礎となる内容を総合的に学び、はり師きゅう師として必要な知識を修得することを目標とする。

[評価方法]

前期認定試験、後期認定試験、卒業試験の全ての試験において60%以上の点数を取ることを基本に、授業の参加度も含め単位取得とする。

[教科書]

[参考書]

教科書「はりきゅう理論」、プリント資料

特になし

授業計画 :回数/講義内容

1回	鍼灸医療事故の事例	11回	体性感覚温度覚まとめ/理解度確認
2回	古代九鍼、毫鍼	12回	体性感覚その他の感覚まとめ
3回	刺鍼の方式と鍼尖形状	13回	痛み総論まとめ/理解度確認
4回	刺鍼の術式	14回	急性痛まとめ/理解度確認
5回	灸の材料と特徴	15回	慢性痛の種類まとめ/理解度確認
6回	灸術の種類	16回	慢性痛の仕組みまとめ/理解度確認
7回	体性感覚総論まとめ/理解度確認	17回	反射の分類
8回	体性感覚触覚まとめ/理解度確認	18回	鍼刺激と反射の仕組みまとめ
9回	体性感覚痛覚まとめ/理解度確認	19回	鍼鎮痛の仕組みまとめ
10回	体性感覚温度覚まとめ/理解度確認	20回	鍼鎮痛とその他の鎮痛について

2021年度

〔分野〕 専門基礎

/ 臨床はり学 臨床きゅう学

[授業科目]

東洋医学臨床論Ⅱ**3学年**

[基本情報]

担当教員	岡野 亜希子		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/はり師きゅう師の教員資格を有する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

1年次、2年次に学んだ東洋医学の知識を復習すると同時に、授業時間内において学んだ部分に対して小テストなどで知識の確認を行い、総合的な理解を深めることを目標とする。
東洋医学概論で学んだ知識を生かし、症候別・ストレスによってどのような状態があるのか理解すると同時に、どのように治療方針を立て、治療を行っていくかを学ぶ。

[評価方法]

前期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において60点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

教科書「東洋医学臨床論(はりきゅう編)」第1版 (東洋療法学校協会編) 医道の日本社

[参考書]

特になし

授業計画 :回数/講義内容

1回	総論	11回	筋肉③
2回	病証①	12回	筋肉④
3回	病証②	13回	神経①
4回	病証③	14回	神経②
5回	病証④	15回	神経③
6回	病証⑤	16回	神経④
7回	六十九難	17回	適応疾患①
8回	要穴	18回	適応疾患②
9回	筋肉①	19回	その他①
10回	筋肉②	20回	その他②

2021 年度

〔分野〕 専門基礎

/ はり・きゅう社会学

[授業科目]

リハビリテーション医学Ⅱ**3学年**

[基本情報]

担当教員	松澤 孝司		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験有り/あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師、柔道整復師の教員					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

はり師きゅう師として必要なリハビリテーションの知識、方法について学ぶ。現在では広い意味でのリハビリテーションに関わることが多くなってきており、単に疾病に対する治療だけではなく、障害から社会復帰までの知識や技術を身に付けることを目的としている。病院との連携に必要なリハビリテーションに関する知識や用語を理解することを目的とする。

[評価方法]

前期卒業単位認定試験、卒業認定最終試験等の全ての試験において60点以上を取ることを基本に、授業の出欠席、授業態度なども参考に総合評価により単位取得とする。

[教科書]

「リハビリテーション医学 第3版（東洋療法学校協会編）」 医歯薬出版

[参考書]

特になし

授業計画 ;回数/講義内容

1回	脳卒中のリハ(概説、評価)	11回	脊髄損傷のリハ(ケアとリスク管理)
2回	脳卒中のリハ(急性期)	12回	切断のリハ(原因と分類)
3回	脳卒中のリハ(回復期リハ)	13回	切断のリハ(合併症)
4回	脳卒中のリハ(言語治療、リスク管理)	14回	切断のリハ(下肢切断の特徴)
5回	脳卒中のリハ(アフタケア)	15回	切断のリハ(上肢切断の特徴)
6回	脳卒中のリハ(リハのゴール)	16回	切断のリハ(アフタケア)
7回	脊髄損傷のリハ(概説、機能障害)	17回	小児リハ(脳性小児麻痺の評価)
8回	脊髄損傷のリハ(急性期リハ)	18回	小児リハ(小児発達の評価)
9回	脊髄損傷のリハ(回復期リハ)	19回	小児リハ(脳性小児麻痺のリハ)
10回	脊髄損傷のリハ(社会復帰期リハ)	20回	小児リハ(その他の小児リハ)